

タイトル 『ホーム・カミング・ロード』

作 村尾 悦子

登場人物 女 8人、男 4人

老女 1  
老女 2  
老女 3  
若者  
老人  
妻  
母親  
兄  
妹  
兵士  
少女  
母

車椅子に座った三人の老女。

老女1は黙々と毛糸を巻いている。毛糸の先は老女2の着ているベスト。  
老女2はベストがほどかかれていることに気がついていない。

老女1の後ろにはうずたかいい色とりどりの毛糸の山。

遠くから老人たちが歌う「むすんでひらいて」のコーラスがかすかに聞こえてくる。

老女 2 人間だけよ。人間だけが二十年も三十年もかかってやっと気がつくのよ。

老女 3 鳥は？

老女 2 数週間。

老女 3 猫は？

老女 2 半年。

老女 3 狐やオオカミは？

老女 2 狐だって、オオカミだって一年も経たないうちに気がつくのよ。

老女 3 人間だけか……。

老女 2 そう、人間だけが気がつかない。

老女3 こんな日が来るなんて思ってもみなかった。

老女2 まさか。

老女3 本当よ。

老女2 子どもはみんな大きくなったら出ていくよ。それが当たり前さ。

老女3 女親はね、息子を他の女にとられるなんて想像もしないで育てるのよ、  
一生懸命、すべてをにかけて。

老女2 おお、怖い。くわばら、くわばら。

老女3 ふん、産んだことない女にはわからない。

老女2 言ってくれるね。

老女3 子どもって縁側で光をいっぱい浴びてる絹の座布団みたいなものさ。

老女2 特等席。

老女3 勲章。

老女2 最後の皆。

老女3 それが突然私のものじゃなくなる。

老女2 断崖絶壁。

老女3 ああ無情。

老女2 死刑宣告。

老女3 で、初めて気がつくのよ。

老女2 太陽はなぜ西に沈むのか？

老女3 木の葉はなぜ秋になると落ちるのか？

老女2 渡り鳥はなぜ海を渡っていくのか？

老女3 それから鏡をじつと見る。

老女2 なに見えるのかい？

老女3 変な顔だよ、あきらめたようなあきらめられないような……。

老女2 母親が死んだとき、私、声を上げて泣いちゃったよ、まるでオオカミ  
たいにね。

老女3 本当は、生まれた瞬間から別れ別れになっていくのよね。

老女2 別れなくちゃいけないのよ、生きてる間は。

老女3 死んだら？

老女2 好きにすればいいさ。もう誰にも憚ることはないよ。

老女3 また会えるかな。

老女2 さあね、そんなこと誰にもわかんないよ。

沈黙。

老女1だけが黙々と毛糸を巻いている。

老女2のベストはすでに半分ほどになっている。

老女3 ……甘ったれすぎるよ、オオカミみたいに泣くなんて。

老女2 仕方ないよ、泣けてきたんだから。

老女3 すっきりしたかい？

老女2 少しはね。

老女3 私も泣いてみたいよ、オオカミみたいに。

老女2 泣けばいいよ。

老女3 泣いてみようか、今。

老女2 ああ、やってみよう。

老女2、3、上を向きオオカミの遠吠えをする。

老女2 どうだい？ 少しはすっかりしたかい？

老女3 ああ、少しはね。

老女3、老女2のベストがほどかれてだんだん小さくなっていることに気がつく。

老女3 あ、いけないよ、それ、勝手にほどこいちゃ。

老女2 またやられた。

老女1、ゆっくりと手を止める。

老女2 ちょっと、なんだよ、人のセーター勝手にほどこいて。まだ着てるんだよ。

老女1 あ……、すみません。

老女2 すみませんじゃないよ。どうすんだよ、こんなにしちまって。

老女3 困ったクセだねえ、毛糸見るとほどこいちゃって。

老女1 ごめんなさい。（毛糸玉を差し出す）

老女2 まったくもうしょうがないなあ、お気に入りだったのに。

老女3 許してやんなよ。やつちゃったものはしょうがないよ。

老女2 ちえつ。（老女1から毛糸玉を奪う）ほどここの毛糸の山、こんなにほどこいてどうするのかね。

老女3 リサイクルつてやつかな。

老女1 私は私をほぐしているのです。

老女2 なんだって？

老女1 私は私をほぐしているのです。

老女2 わかる？

老女3 さあね。

老女2 謎だよ。

老女3 こないだも「家に帰る、家に帰る」って、もう家なんか無いのにさ。

老女2 息子がいるんだろう？

老女3 外国にね。年に一度も帰ってこない、ほつたらかしだよ。

老女2 姥捨てか。

老女3 みんな似たようなもんさ。ここしか居場所はないんだよ。

老女 1 あー。  
老女 2 なんだい？  
老女 1 家に帰るにはどのバスに乗ればいいんでしょうねえ。  
老女 3 ほら、きた。  
老女 2 バスなんかないよ。ここは終着駅、帰りの切符はありません。  
老女 3 ここがあんたの家だよ。もう他に帰るところはないんだよ。  
老女 1 家に帰るにはバスに乗って……。  
老女 3 あんたの家はとくに人手に渡ってなくなってるんでしょう？ 息子さんは仕事で外国。だからここでおとなしく暮らしてなきゃダメなんだよ。  
老女 1 早く帰ってご飯を作らないと……。  
老女 3 誰も待ってやしないってば。  
老女 1 バスを降りると学校があつて……。  
老女 3 もう、わかんない人だね。このもうろくばあ。  
老女 2 青年は荒野を目指す、老人は自宅を目指す。  
老女 3 突然なんだよ。  
老女 2 私も帰りたい。帰りたいよー、自分の家に。  
老女 3 うつつたのかい？  
老女 2 かもしれない。  
老女 3 およしよ。  
老女 2 あんたは見たくないかい？ 自分の家。  
老女 3 そりゃあ、見たいよ、あたしだって。  
老女 1 今頃は……。  
老女 2 今頃は？  
老女 1 ハナミズキが咲いている。  
老女 3 ハナミズキ。色は？  
老女 1 真っ白よ！  
老女 2 真っ白か。  
老女 1 帰りたいな。  
老女 2、3 帰りたいよ。

続く